

# ～子どもの心を優しくつつむ絵本の読み聞かせの極意～

講師に 夢みらい図書館司書(児童担当)の山西 朋子さんをお招きし、図書館の活用法や読み聞かせの極意について教えていただきました。

講座では、おはなし会でのエピソードを添えながらたっぷり読み聞かせもしていただきました。山西さんの優しく澄んだお声に心がふんわりとつつまれ、とても心地のよい贅沢な時間をみんなで共有できました。山西さんが伝えてくださった素敵な言葉の一部をご紹介します。子どもと絵本を楽しむ際のヒントにしてください。



お話いただいたのは・・・  
夢みらい図書館司書(児童担当) 山西 朋子さん

## ～まずは、子どもの心が“満足感”でいっぱいになる絵本を～

読み聞かせの極意として、「子どもというのは、今と絵本の境界線がなく、たっぴり絵本の世界で遊べる人たちです。楽しい、子どもが求めている絵本を届けることです。」と山西さん。子どもは絵本の中で、魅力的なものに対する憧れや今の自分ができないことをしてくれる主人公への憧れなど、それぞれの楽しさをたっぴり楽しんでいるというお話に、子どもの視点に立った選書の大切さを学びました。

## ～本は読んでもらうもの～

物語の楽しみ方について、「文字が読めるようになると、子どもは自分で本を読まなければならないと思う人がいますが、子どもたちと物語を一緒に楽しめる時間がありましたら、読んであげてほしいと思います。」と山西さん。読んでもらえれば物語の世界を思いきり楽しむことができるので、文字が読めるようになっても大人が読んであげることが大事だということをお教わりしました。

### 【まかせて会員さんへのアドバイス】

少し長めの物語絵本を楽しめる年齢の子どもには、一度で全部を読もうとせず「今日はここまでね、続きは次ね」と少しずつ読んであげるところから始めるといいそうです。

- 子どもの絵本に対する感じ方をもっと知りたい方におすすめの本

対象4歳～

おおはくちょうのそら  
手島 圭三郎 【絵本塾出版】

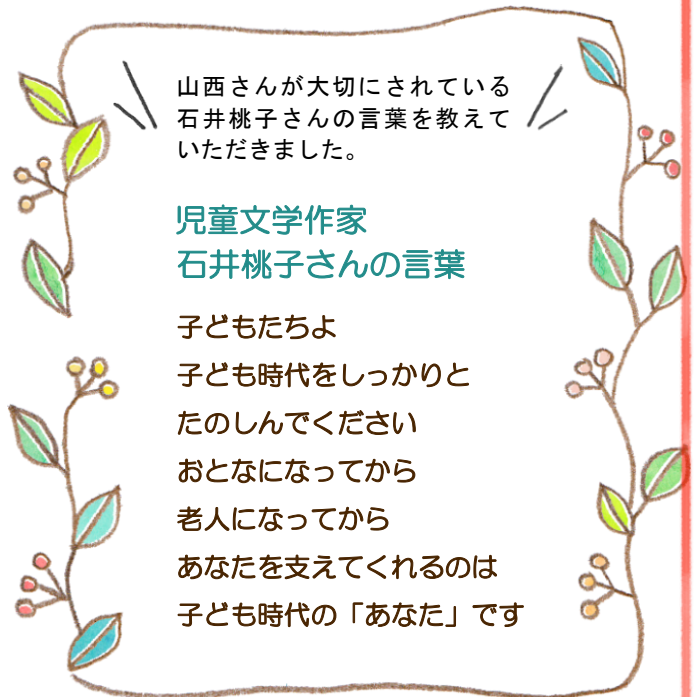
病気で空を飛ぶことのできない子どものために、北の国に帰る時期を遅らせていたおおはくちょうの家族。しかし旅立ちの日は近づいています。そして、おとうさんは子どもをおいていくことに……。おおはくちょうの家族の悲しくもやさしい物語。大切な人が死後も心の中に生きていくということが子どもに伝わる、子どもたちの感情の育ちを感じることができる本。

- 読み聞かせしていただいた本の中でも、「大人も魅了された」と反響があった絵本

大人向け

絵本の記憶、子どもの気持ち  
山口 雅子著 【福音館書店】

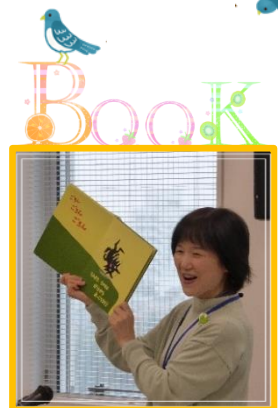
大学で教えている著者が学生に出した課題のレポートをまとめた本。子ども時代の思い出の絵本についてレポートするという課題に対し、大学生たちは絵本の記憶をたどり、母親の声やそのときの情景まで一緒に思い出します。著者は、学生たちが子どもの頃好きだった絵本とそれにまつわるエピソードをもとに、子どもが絵本をどんな風楽しんでいるか、大人はなかなか知ることのできない子どもの心の内を考察しています。



山西さんが大切にされている石井桃子さんの言葉を教えていただきました。

### 児童文学作家 石井桃子さんの言葉

子どもたちよ  
子ども時代をしっかりと  
たのしんでください  
おとなになってから  
老人になってから  
あなたを支えてくれるのは  
子ども時代の「あなた」です



選書の相談がありましたら、ぜひ図書館にきてくださいね！